

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のI F記載要領 2013 に準拠して作成

高親和性AT<sub>1</sub>レセプターブロッカー  
**日本薬局方 オルメサルタン メドキシミル錠**  
**J・P Olmesartan Medoxomil Tablets**

**オルメサルタン錠 5 mg「日新」**  
**オルメサルタン錠 10 mg「日新」**  
**オルメサルタン錠 20 mg「日新」**  
**オルメサルタン錠 40 mg「日新」**

剤形	錠剤（素錠）
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	錠 5mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 5mg 含有 錠 10mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 10mg 含有 錠 20mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 20mg 含有 錠 40mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 40mg 含有
一般名	和名：オルメサルタン メドキシミル 洋名：Olmesartan Medoxomil
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日：2017年8月15日 薬価基準収載年月日：2017年12月8日 発売年月日：2017年12月8日
開発・製造販売 （輸入）・提携・ 販売会社名	製造販売元：日新製薬株式会社
医薬情報担当者の 連絡先	
問い合わせ窓口	日新製薬株式会社 安全管理部 TEL：023-655-2131 FAX：023-655-3419 医療関係者向けホームページ： <a href="https://www.yg-nissin.co.jp/">https://www.yg-nissin.co.jp/</a>

本I Fは2020年1月改訂（第2版）の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> にてご確認ください。

## I F 利用の手引きの概要 ー日本病院薬剤師会ー

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I F と略す）の位置付け並びに I F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において I F 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな I F 記載要領 2008 が策定された。

I F 記載要領 2008 では、I F を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-I F）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-I F が提供されることとなった。

最新版の e-I F は、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-I F を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-I F の情報を検討する組織を設置して、個々の I F が添付文書を補完する適正使用上情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、I F 記載要領の一部改訂を行い I F 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

### 2. I F とは

I F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された I F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

#### [ I F の様式 ]

- ①規格は A 4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ② I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

#### [ I F の作成 ]

- ① I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定した I F 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの I F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「I F 記載要領 2013」と略す）により作成された I F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

## [ I F の発行 ]

- ① 「 I F 記載要領 2013 」 は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「 I F 記載要領 2013 」 による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

### 3. I F の利用にあたって

「 I F 記載要領 2013 」 においては、 P D F ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の I F については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、 I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の M R 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、 I F の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、 I F が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、 I F の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

I F を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。 I F は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、 I F があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)



## Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由	3 2
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	3 2
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	3 2
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	3 2
5. 慎重投与内容とその理由	3 2
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	3 2
7. 相互作用	3 3
8. 副作用	3 4
9. 高齢者への投与	3 5
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	3 5
11. 小児等への投与	3 5
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	3 6
13. 過量投与	3 6
14. 適用上の注意	3 6
15. その他の注意	3 6
16. その他	3 6

## Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験	3 7
2. 毒性試験	3 7

## Ⅹ. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	3 8
2. 有効期間又は使用期限	3 8
3. 貯法・保存条件	3 8
4. 薬剤取扱い上の注意点	3 8
5. 承認条件等	3 8
6. 包装	3 8
7. 容器の材質	3 8
8. 同一成分・同効薬	3 8
9. 国際誕生年月日	3 8
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	3 9
11. 薬価基準収載年月日	3 9
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	3 9
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	3 9
14. 再審査期間	3 9
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	3 9
16. 各種コード	3 9
17. 保険給付上の注意	3 9

## Ⅺ. 文献

1. 引用文献	4 0
2. その他の参考文献	4 0

## Ⅻ. 参考資料

1. 主な外国での発売状況	4 0
2. 海外における臨床支援情報	4 0

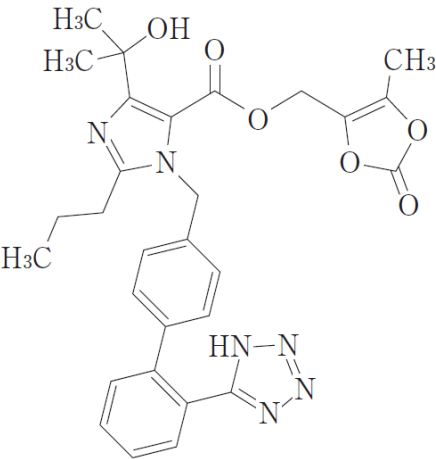
## ⅫⅢ. 備考

その他の関連資料	4 0
----------	-----

## I. 概要に関する項目

<b>1. 開発の経緯</b>	<p>オルメサルタン メドキシミルは、アンジオテンシンⅡ受容体阻害薬の一つで、血圧降下剤である。アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬とも呼ばれ、アンジオテンシンⅡの作用を抑制することで体内の血管が広がり、水分や電解質の量が調節され、血圧が下がる。経口投与可能なイミダゾール環を持つ非ペプチド性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬である。</p> <p>日新製薬㈱は、オルメサルタン錠 5mg「日新」、オルメサルタン錠 10mg「日新」、オルメサルタン錠 20mg「日新」、オルメサルタン錠 40mg「日新」を後発医薬品として企画・開発し、薬食発 1121 第 2 号（平成 26 年 11 月 21 日）に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2017 年 8 月に承認を取得し、2017 年 12 月に薬価収載された。</p>
<b>2. 製品の治療学的・製剤学的特性</b>	<p>オルメサルタン メドキシミルはアンジオテンシンⅡ受容体のサブタイプ AT<sub>1</sub> 受容体の拮抗薬である。内因性昇圧物質のアンジオテンシンⅡに対して受容体レベルで競合的に拮抗することにより降圧作用をあらわす。なお、本薬はプロドラッグであり、経口投与後、主に小腸上皮においてエステラーゼにより加水分解を受け、活性代謝物であるオルメサルタンに変換される。</p> <p>重大な副作用として、血管浮腫、腎不全、高カリウム血症、ショック、失神、意識消失、肝機能障害、黄疸、血小板減少、低血糖、横紋筋融解症、アナフィラキシー、重度の下痢、間質性肺炎があらわれることがある。</p>

## II. 名称に関する項目


<p>1. 販売名 (1) 和名  (2) 洋名  (3) 名称の由来</p>	<p>オルメサルタン錠 5mg 「日新」          オルメサルタン錠 10mg 「日新」          オルメサルタン錠 20mg 「日新」          オルメサルタン錠 40mg 「日新」</p> <p>Olmesartan Tablets 5mg “NISSIN”          Olmesartan Tablets 10mg “NISSIN”          Olmesartan Tablets 20mg “NISSIN”          Olmesartan Tablets 40mg “NISSIN”</p> <p>本剤の一般名「オルメサルタン メドキシミル」に由来する。</p>
<p>2. 一般名 (1) 和名 (命名法) (2) 洋名 (命名法) (3) ステム</p>	<p>オルメサルタン メドキシミル (JAN)          Olmesartan Medoxomil (JAN, INN)          アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬: -sartan</p>
<p>3. 構造式又は示性式</p>	
<p>4. 分子式及び分子量</p>	<p>分子式: C<sub>29</sub>H<sub>30</sub>N<sub>6</sub>O<sub>6</sub>          分子量: 558.59</p>
<p>5. 化学名 (命名法)</p>	<p>(5-Methyl-2-oxo-1,3-dioxol-4-yl)methyl 4-(1-hydroxy-1-methylethyl)-2-propyl-1-[[2'-(1H-tetrazol-5-yl)biphenyl-4-yl]methyl]-1H-imidazole-5-carboxylate (IUPAC)</p>
<p>6. 慣用名、別名、略号、記号番号</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>7. CAS登録番号</p>	<p>144689-63-4 (Olmesartan Medoxomil)</p>

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質 (1) 外観・性状 (2) 溶解性 (3) 吸湿性 (4) 融点(分解点)、沸点、凝固点 (5) 酸塩基解離定数 (6) 分配係数 (7) その他の主な示性値	白色～微黄白色の結晶性の粉末である。 アセトニトリル又はエタノール(99.5)に溶けにくく、水にほとんど溶けない。 該当資料なし 該当資料なし 該当資料なし 該当資料なし 該当資料なし
2. 有効成分の各種条件下における安定性	該当資料なし
3. 有効成分の確認試験法	日本薬局方オルメサルタン メドキシミルの確認試験法による。 (1) 紫外可視吸光度測定法 (2) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)
4. 有効成分の定量法	日本薬局方オルメサルタン メドキシミルの定量法による。 液体クロマトグラフィー(内標準法)



## IV. 製剤に関する項目

1. 剤形 (1) 剤形の区別、外観及び性状	販売名	オルメサルタン錠 5mg「日新」	オルメサルタン錠 10mg「日新」	
	区別	錠剤（素錠）		
	性状	淡黄白色の素錠※	白色の片面割線入り素錠※	
	外形			
	大きさ	錠径： 7.0mm 錠厚： 2.3mm 重量： 120mg	錠径： 7.0mm 錠厚： 2.3mm 重量： 120mg	
	販売名	オルメサルタン錠 20mg「日新」	オルメサルタン錠 40mg「日新」	
	区別	錠剤（素錠）		
	性状	白色の片面割線入り素錠※		
	外形			
	大きさ	錠径： 8.0mm 錠厚： 2.4mm 重量： 160mg	錠径： 8.5mm 錠厚： 2.8mm 重量： 200mg	
(2) 製剤の物性	※においはないか、又はわずかに特異なおいがある。			
(3) 識別コード	該当資料なし			
(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等	販売名	オルメサルタン錠 5mg「日新」	オルメサルタン錠 10mg「日新」	
	本体表示	表面	オルメサルタン 5 日新	オルメ 10
		裏面	オルメサルタン 5 日新	オルメサルタン 10 日新
	販売名	オルメサルタン錠 20mg「日新」	オルメサルタン錠 40mg「日新」	
	本体表示	表面	オルメ 20	オルメ 40
		裏面	オルメサルタン 20 日新	オルメサルタン 40 日新
該当しない				
2. 製剤の組成				
(1) 有効成分（活性成分）の含量	錠 5mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 5mg 含有 錠 10mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 10mg 含有 錠 20mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 20mg 含有 錠 40mg : 1錠中に日本薬局方オルメサルタン メドキシミル 40mg 含有			
(2) 添加物	錠 5mg : 乳糖水和物、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸カルシウム、黄色三二酸化鉄 錠 10mg、錠 20mg、錠 40mg : 乳糖水和物、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸カルシウム			
(3) その他	該当しない			
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	該当しない			

4. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1) 2)</sup>

**オルメサルタン錠 5mg 「日新」**

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。

**加速試験**

試験条件：最終包装製品（PTP 包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）の状態で、40±1℃、75±5%R. H.

項目及び規格	開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠
確認試験 紫外可視吸光度測定法	適合	適合	適合	適合
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及びRRT 約1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合
製剤均一性 (含量均一性試験(%)) 判定値 : 15.0%を超えない	1.9	1.9	1.6	2.1
溶出性(%) 第2液(pH6.8)、50回転、30分、80%以上	96~100	95~101	94~97	94~97
定量試験(%) 95.0~105.0	99.9	100.5	99.7	99.5

**無包装状態における安定性試験（参考情報）**

温度（40℃ 遮光・密栓）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠 (わずかに特異なにおいあり)	淡黄白色の素錠 (特異なにおいあり)	淡黄白色の素錠 (特異なにおいあり)	淡黄白色の素錠 (特異なにおいあり)
含量(%) 95.0~105.0	98.2	97.5	96.8	97.2
溶出性(%) 第2液(pH6.8)、30分、80%以上	97~100	95~98	94~97	92~98
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及びRRT 約1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	不適合
硬度(N)	65	73	72	71

湿度（30℃75%R. H. 遮光・開放）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠 (わずかに特異なにおいあり)	淡黄白色の素錠 (特異なにおいあり)	淡黄白色の素錠 (特異なにおいあり)	淡黄白色の素錠 (特異なにおいあり)
含量(%) 95.0~105.0	98.2	97.5	97.0	97.2
溶出性(%) 第2液(pH6.8)、30分、80%以上	97~100	96~99	96~98	95~98
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及びRRT 約1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	不適合
硬度(N)	65	69	63	67

光 (D65 ランプ 約 1000lx 開放)

項目及び規格	開始時	約 60 万 lx・hr (約 25 日)	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠 (わずかに特異な においあり)	淡黄白色の素錠 (わずかに特異な においあり)	淡黄白色の素錠 (わずかに特異な においあり)
含量 (%) 95.0~105.0	98.2	97.6	98.0
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	97~100	95~97	95~98
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上 記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の 総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合
硬度 (N)	65	72	67

温度・湿度 成り行き\* (遮光・開放) \*温度 : 21.2~29.3℃、湿度 : 15~49%R. H.

項目及び規格	開始時	約 50 日
外観 淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠 (わずかに特異なにおいあり)	淡黄白色の素錠 (わずかに特異なにおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	98.2	97.7
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	97~100	95~97
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上 記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の 総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	65	72

一次包装状態 (PTP シート) の安定性試験 (参考情報)

湿度 (30℃75%R. H. PTP シート)

項目及び規格	開始時	3 カ月
外観 淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	98.2	97.3
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	97~100	96~100
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上 記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の 総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	65	58

光 (D65 ランプ 約 1000lx PTP シート)

項目及び規格	開始時	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠	淡黄白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	98.2	97.9
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	97~100	95~98
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上 記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の 総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	65	65

### オルメサルタン錠 10mg「日新」

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。

#### 加速試験

試験条件：最終包装製品（PTP 包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）の状態で、40±1℃、75±5%R. H.

項目及び規格	開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
確認試験 紫外可視吸光度測定法	適合	適合	適合	適合
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及び RRT 約1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合
製剤均一性 (含量均一性試験(%)) 判定値 : 15.0%を超えない	3.0	2.8	2.0	2.6
溶出性(%) 第2液 (pH6.8)、50 回転、30 分、80%以上	97~100	95~101	93~97	94~99
定量試験(%) 95.0~105.0	99.7	99.3	99.4	99.0

#### 無包装状態における安定性試験（参考情報）

温度（40℃ 遮光・密栓）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なにおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なにおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なにおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なにおいあり)
含量(%) 95.0~105.0	100.4	100.3	100.0	99.6
溶出性(%) 第2液 (pH6.8)、30 分、80%以上	100~103	100~102	99~102	99~102
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及び RRT 約1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合
硬度(N)	62	55	54	50

湿度（30℃75%R. H. 遮光・開放）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なにおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なにおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なにおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なにおいあり)
含量(%) 95.0~105.0	100.4	100.6	100.1	99.1
溶出性(%) 第2液 (pH6.8)、30 分、80%以上	100~103	98~103	99~102	98~101
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及び RRT 約1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合
硬度(N)	62	45	39	46

光 (D65 ランプ 約 1000lx 開放)

項目及び規格	開始時	約 60 万 lx・hr (約 25 日)	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	100.4	100.4	100.1
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	100~103	100~102	99~101
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合
硬度 (N)	62	54	48

温度・湿度 成り行き\* (遮光・開放) \*温度 : 21.2~29.3℃、湿度 : 15~49%R.H.

項目及び規格	開始時	約 50 日
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	100.4	99.6
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	100~103	98~100
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	62	50

一次包装状態 (PTP シート) の安定性試験 (参考情報)

光 (D65 ランプ 約 1000lx PTP シート)

項目及び規格	開始時	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
含量 (%) 95.0~105.0	100.4	100.0
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	100~103	99~100
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	62	48

### 二分割後の安定性試験（参考情報）

オルメサルタン錠 10mg「日新」の規格及び試験方法に従い、本剤を錠剤ハサミを使用し割線に沿って二分割した半錠（5mg 含有）を用いて試験を行った。なお、溶出性については、二分割品2個（1錠分）を用いて試験を行った。

#### 温度（40°C 分割後・遮光・密栓）

項目及び規格	開始時	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量(%) 95.0~105.0	100.4	99.6	99.9	100.1
溶出性(%) 第2液(pH6.8)、30分、80%以上	97~106	97~105	95~106	100~103
純度試験 類縁物質 ・RRT約0.2及びRRT約1.6:0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々:0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和:1.4%以下	適合	適合	適合	適合

#### 湿度（30°C75%R.H. 分割後・遮光・開放）

項目及び規格	開始時	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量(%) 95.0~105.0	100.4	100.1	100.9	99.0
溶出性(%) 第2液(pH6.8)、30分、80%以上	97~106	91~102	98~102	98~103
純度試験 類縁物質 ・RRT約0.2及びRRT約1.6:0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々:0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和:1.4%以下	適合	適合	適合	適合

#### 光（D65 ランプ 約1000lx 分割後・開放）

項目及び規格	開始時	約60万lx・hr (約25日)	約120万lx・hr (約50日)
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量(%) 95.0~105.0	100.4	99.7	99.6
溶出性(%) 第2液(pH6.8)、30分、80%以上	97~106	95~107	100~106
純度試験 類縁物質 ・RRT約0.2及びRRT約1.6:0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々:0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和:1.4%以下	適合	適合	適合

### オルメサルタン錠 20mg 「日新」

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。

#### 加速試験

試験条件：最終包装製品（PTP 包装（PTP 包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）及びバラ包装（直接、乾燥剤と共にポリエチレン製容器に充てんし、装栓し、紙箱に入れたもの））の状態、40±1℃、75±5%R.H.

項目及び規格		開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 白色の片面割線入り素錠	PTP	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
	バラ		白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
確認試験 紫外可視吸光度測定法	PTP	適合	適合	適合	適合
	バラ		適合	適合	適合
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及び RRT 約1.6 : 0.6% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4% 以下	PTP	適合	適合	適合	適合
	バラ		適合	適合	適合
製剤均一性 (含量均一性試験(%)) 判定値 : 15.0% を超えない	PTP	1.9	2.3	1.9	2.2
	バラ		1.8	1.6	2.5
溶出性 (%) 第2液 (pH6.8)、50 回転、30 分、80% 以上	PTP	93~99	93~99	93~97	93~97
	バラ		92~97	93~97	91~96
定量試験 (%) 95.0~105.0	PTP	99.8	99.8	101.2	99.4
	バラ		99.2	100.6	98.9

#### 無包装状態における安定性試験（参考情報）

温度（40℃ 遮光・密栓）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	99.7	99.4	99.2	98.7
溶出性 (%) 第2液 (pH6.8)、30 分、80% 以上	96~100	98~100	97~98	98~100
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及び RRT 約1.6 : 0.6% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4% 以下	適合	適合	適合	適合
硬度 (N)	60	55	46	46

湿度（30℃75%R.H. 遮光・開放）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	99.7	99.7	100.4	99.0
溶出性 (%) 第2液 (pH6.8)、30 分、80% 以上	96~100	97~100	96~100	96~99
純度試験 類縁物質 ・RRT 約0.2 及び RRT 約1.6 : 0.6% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4% 以下	適合	適合	適合	適合
硬度 (N)	60	44	53	46

光 (D65 ランプ 約 1000lx 開放)

項目及び規格	開始時	約 60 万 lx・hr (約 25 日)	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	99.7	99.6	99.9
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	96~100	97~101	94~97
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合
硬度 (N)	60	51	46

温度・湿度 成り行き\* (遮光・開放) \*温度 : 21.2~29.3°C、湿度 : 15~49%R.H.

項目及び規格	開始時	約 50 日
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	99.7	98.8
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	96~100	95~97
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	60	48

一次包装状態 (PTP シート又はバラ容器) の安定性試験 (参考情報)

光 (D65 ランプ 約 1000lx PTP シート)

項目及び規格	開始時	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
含量 (%) 95.0~105.0	99.7	98.9
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	96~100	95~99
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	60	50

光 (D65 ランプ 約 1000lx バラ容器)

項目及び規格	開始時	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
含量 (%) 95.0~105.0	99.7	98.9
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	96~100	97~100
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	60	48



### 二分割後の安定性試験（参考情報）

オルメサルタン錠 20mg「日新」の規格及び試験方法に従い、本剤を錠剤ハサミを使用し割線に沿って二分割した半錠（10mg 含有）を用いて試験を行った。なお、溶出性については、二分割品 2 個（1 錠分）を用いて試験を行った。

#### 温度（40°C 分割後・遮光・密栓）

項目及び規格	開始時	1 ヵ月	2 ヵ月	3 ヵ月
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	100.0	98.6	98.9	99.2
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	94~102	98~109	96~102	99~101
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合

#### 湿度（30°C75%R.H. 分割後・遮光・開放）

項目及び規格	開始時	1 ヵ月	2 ヵ月	3 ヵ月
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	100.0	99.7	98.6	100.1
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	94~102	95~100	94~104	97~99
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合

#### 光（D65 ランプ 約 1000lx 分割後・開放）

項目及び規格	開始時	約 60 万 lx・hr (約 25 日)	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	100.0	99.9	99.4
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、80%以上	94~102	95~108	97~103
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合

### オルメサルタン錠 40mg「日新」

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において 3 年間安定であることが推測された。

#### 加速試験

試験条件：最終包装製品（PTP 包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）の状態で、40±1℃、75±5%R. H.

項目及び規格	開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
確認試験 紫外可視吸光度測定法	適合	適合	適合	適合
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4% 以下	適合	適合	適合	適合
製剤均一性 (含量均一性試験(%)) 判定値 : 15.0% を超えない	2.5	2.2	2.0	2.5
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、50 回転、30 分、75% 以上	92~97	89~93	90~95	88~93
定量試験 (%) 95.0~105.0	98.4	99.4	100.7	98.9

#### 無包装状態における安定性試験（参考情報）

温度（40℃ 遮光・密栓）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	98.1	98.7	97.9	97.9
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75% 以上	91~95	91~94	90~92	91~92
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4% 以下	適合	適合	適合	適合
硬度 (N)	67	63	58	64

湿度（30℃75%R. H. 遮光・開放）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	98.1	99.3	98.9	98.2
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75% 以上	91~95	90~95	91~94	92~95
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2% 以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4% 以下	適合	適合	適合	適合
硬度 (N)	67	45	48	44

光 (D65 ランプ 約 1000lx 開放)

項目及び規格	開始時	約 60 万 lx・hr (約 25 日)	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	98.1	99.0	97.7
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75%以上	91~95	90~95	91~93
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合
硬度 (N)	67	60	55

温度・湿度 成り行き\* (遮光・開放) \* 温度 : 21.2~29.3°C、湿度 : 15~49%R.H.

項目及び規格	開始時	約 50 日
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)	白色の片面割線入り素錠(わずかに特異なおいあり)
含量 (%) 95.0~105.0	98.1	97.1
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75%以上	91~95	93~95
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	67	61

一次包装状態 (PTP シート) の安定性試験 (参考情報)

光 (D65 ランプ 約 1000lx PTP シート)

項目及び規格	開始時	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠	白色の片面割線入り素錠
含量 (%) 95.0~105.0	98.1	97.9
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75%以上	91~95	92~95
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合
硬度 (N)	67	61

**二分割後の安定性試験（参考情報）**

オルメサルタン錠 40mg「日新」の規格及び試験方法に従い、本剤を錠剤ハサミを使用し割線に沿って二分割した半錠（20mg 含有）を用いて試験を行った。なお、溶出性については、二分割品 2 個（1 錠分）を用いて試験を行った。

**温度（40℃ 分割後・遮光・密栓）**

項目及び規格	開始時	1 ヵ月	2 ヵ月	3 ヵ月
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	98.3	98.6	97.8	98.0
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75%以上	92~99	91~96	86~97	92~94
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合

**湿度（30℃75%R.H. 分割後・遮光・開放）**

項目及び規格	開始時	1 ヵ月	2 ヵ月	3 ヵ月
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	98.3	98.0	98.2	98.1
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75%以上	92~99	92~94	89~95	93~96
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合	適合

**光（D65 ランプ 約 1000lx 分割後・開放）**

項目及び規格	開始時	約 60 万 lx・hr (約 25 日)	約 120 万 lx・hr (約 50 日)
外観 (分割後)	白色の素錠	白色の素錠	白色の素錠
含量 (%) 95.0~105.0	98.3	98.0	97.9
溶出性 (%) 第 2 液 (pH6.8)、30 分、75%以上	92~99	92~96	85~94
純度試験 類縁物質 ・RRT 約 0.2 及び RRT 約 1.6 : 0.6%以下 ・オルメサルタン メドキシミル及び上記以外の個々 : 0.2%以下 ・オルメサルタン メドキシミル以外の総和 : 1.4%以下	適合	適合	適合

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化  
(物理化学的变化)

**取扱い上の注意**

本剤をメトホルミン塩酸塩製剤又はカモスタットメシル酸塩製剤等と一包化し高温多湿条件下にて保存した場合、メトホルミン塩酸塩製剤又はカモスタットメシル酸塩製剤等が変色することがあるので、一包化は避けること。  
(「X. 管理的事項に関する項目 4. (1)」を参照)

## 7. 溶出性<sup>3)</sup>

### オルメサルタン錠5mg「日新」の溶出挙動における同等性

含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン：平成12年2月14日付医薬審第64号（一部改正：平成24年2月29日付薬食審査発0229第10号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方溶出試験第1液

pH6.5 薄めたMcIlvaineの緩衝液

pH6.8 日本薬局方溶出試験第2液

水 日本薬局方精製水

回転数：50rpm（pH1.2、pH6.5、pH6.8、水）、100rpm（pH6.5）

試験回数：各12ベッセル

試験時間：pH1.2では2時間、その他の試験液では6時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で、試験を終了することができる。

分析法：紫外可視吸光度測定法

標準製剤：オルメサルタン錠20mg「日新」

判定基準：ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って同等性を判定した。

#### 【pH1.2(50rpm)、pH6.8(50rpm)】

標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合

試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にある。

最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が85%以上に達するとき、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。

#### 【pH6.5(50rpm)】

標準製剤が30分以内に平均85%以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が85%以上となる時、標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあるか、又はf2関数の値は50以上である。

最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が50%以上に達し85%に達しないとき、試験製剤の平均溶出率±12%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±20%の範囲を超えるものがない。

#### 【水(50rpm)】

標準製剤が30分以内に平均85%以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が50%に達しないとき、標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にあるか、又はf2関数の値が61以上である。ただし、規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が10%以下の場合、規定された試験時間でのみ評価し、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にある。

最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が50%に達しないとき、試験製剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±15%の範囲を超えるものがない。

### 【pH6.5(100rpm)】

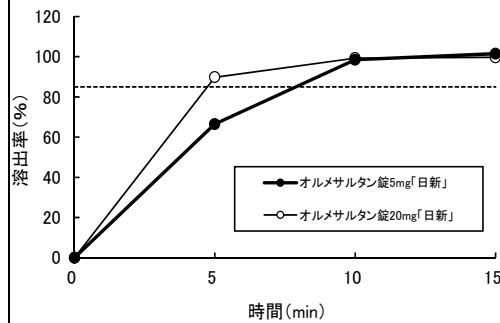
標準製剤が 15～30 分に平均 85%以上溶出する場合

標準製剤の平均溶出率が約 60%及び 85%となる適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 10\%$ の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 50 以上である。

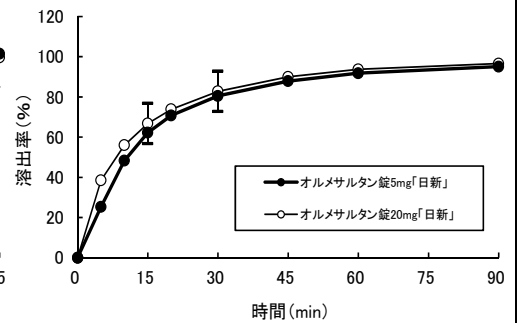
最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が 85%以上に達するとき、試験製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、 $\pm 25\%$ の範囲を超えるものがない。

結果：平均溶出率及び個々の溶出率ともにガイドラインの基準を全て満たし溶出挙動が同等と判断されたため、両製剤は生物学的に同等とみなされた。

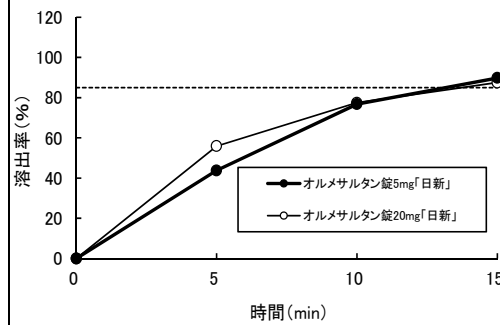
pH1.2 50rpm



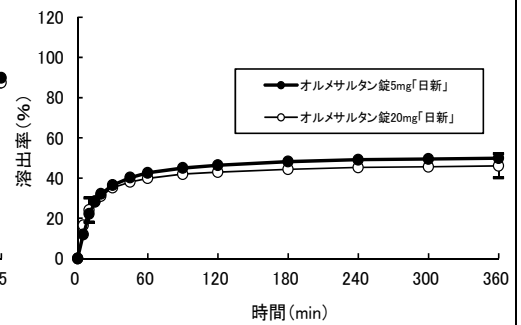
pH6.5 50rpm



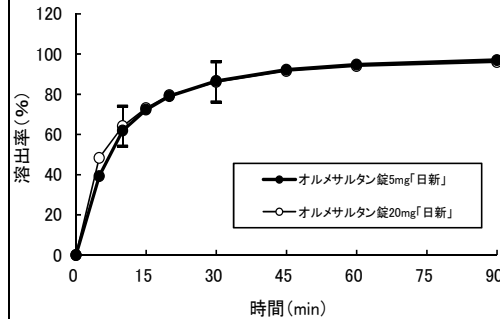
pH6.8 50rpm



水 50rpm



pH6.5 100rpm



表：溶出挙動における同等性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (オルメサルタン錠 20mg「日新」)	オルメサルタン錠 5mg「日新」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50rpm	pH1.2	15分	99.7	101.5	適合
	pH6.5	15分	66.8	62.2	適合
		30分	82.8	80.5	
	pH6.8	15分	87.5	89.8	適合
	水	10分	24.1	22.2	適合
360分		46.1	49.9		
100rpm	pH6.5	10分	64.1	61.9	適合
		30分	86.1	86.6	

(n=12)

表：溶出挙動における同等性（試験製剤の個々の溶出率）

試験条件		最終比較 時点	オルメサルタン錠 5mg「日新」		判定基準	判定
回転数	試験液		平均 溶出率%	個々の 溶出率%		
50rpm	pH1.2	15分	101.5	100.1~105.1	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。	適合
	pH6.5	30分	80.5	77.8~82.8	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±12%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±20%の範囲を超えるものがない。	適合
	pH6.8	15分	89.8	87.0~91.6	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。	適合
水	360分	49.9	47.6~51.6	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±15%の範囲を超えるものがない。	適合	
100rpm	pH6.5	30分	86.6	84.0~88.0	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。	適合

(n=12)

オルメサルタン錠 5mg「日新」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオルメサルタン メドキシミル錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

試験液	回転数	規定時間	溶出規格
第2液(pH6.8)	50rpm	30分	80%以上

**オルメサルタン錠 10mg「日新」** の溶出挙動における同等性

含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 12 年 2 月 14 日付医薬審第 64 号（一部改正：平成 24 年 2 月 29 日付薬食審査発 0229 第 10 号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5°C

試験液：pH1.2 日本薬局方溶出試験第 1 液

pH6.5 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方溶出試験第 2 液

水 日本薬局方精製水

回転数：50rpm (pH1.2、pH6.5、pH6.8、水)、100rpm (pH6.5)

試験回数：各 12 ベッセル

試験時間：pH1.2 では 2 時間、その他の試験液では 6 時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が 85% を越えた時点で、試験を終了することができる。

分析法：紫外可視吸光度測定法

標準製剤：オルメサルタン錠 20mg「日新」

判定基準：ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って同等性を判定した。

**【pH1.2(50rpm)、pH6.8(50rpm)】**

標準製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出する場合

試験製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にある。

最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が 85% 以上に達するとき、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。

**【pH6.5(50rpm)】**

標準製剤が 30 分以内に平均 85% 以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 85% 以上となる時、標準製剤の平均溶出率が 40% 及び 85% 付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあるか、又は f2 関数の値は 50 以上である。

最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が 50% 以上に達し 85% に達しないとき、試験製剤の平均溶出率±12% の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±20%の範囲を超えるものがない。

**【水(50rpm)】**

標準製剤が 30 分以内に平均 85% 以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 50% に達しないとき、標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 61 以上である。ただし、規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 10% 以下の場合、規定された試験時間でのみ評価し、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にある。

最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が 50% に達しないとき、試験製剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±15%の範囲を超えるものがない。



### 【pH6.5(100rpm)】

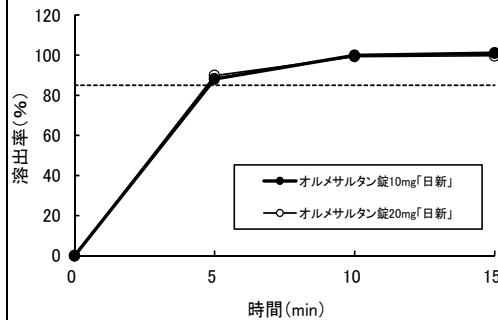
標準製剤が 15～30 分に平均 85%以上溶出する場合

標準製剤の平均溶出率が約 60%及び 85%となる適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 50 以上である。

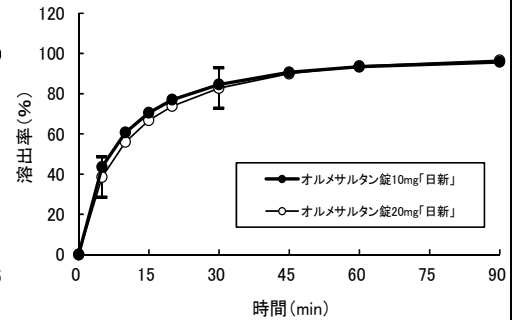
最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が 85%以上に達するとき、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。

結果：平均溶出率及び個々の溶出率ともにガイドラインの基準を全て満たし溶出挙動が同等と判断されたため、両製剤は生物学的に同等とみなされた。

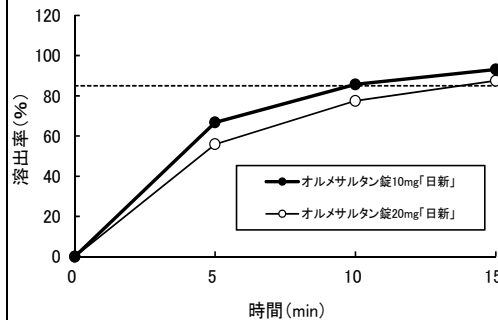
pH1.2 50rpm



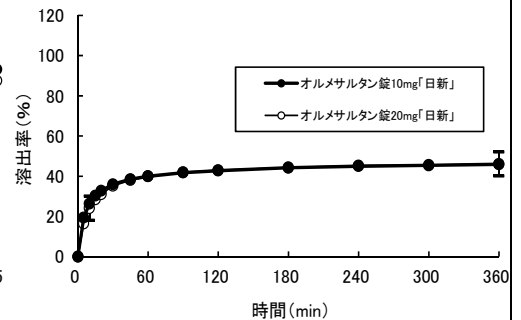
pH6.5 50rpm



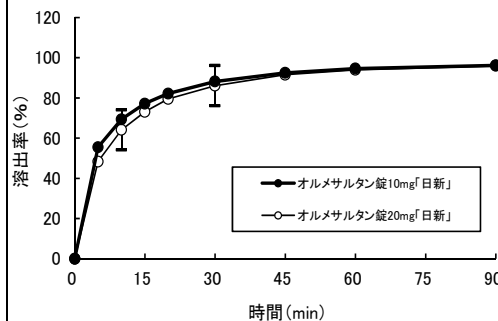
pH6.8 50rpm



水 50rpm



pH6.5 100rpm



表：溶出挙動における同等性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (オルメサルタン錠 20mg「日新」)	オルメサルタン錠 10mg「日新」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50rpm	pH1.2	15分	99.7	101.0	適合
	pH6.5	5分	38.5	43.6	適合
		30分	82.8	84.6	
	pH6.8	15分	87.5	93.1	適合
	水	10分	24.1	26.4	適合
		360分	46.1	45.9	
100rpm	pH6.5	10分	64.1	69.4	適合
		30分	86.1	88.2	

(n=12)

表：溶出挙動における同等性（試験製剤の個々の溶出率）

試験条件		最終比較 時点	オルメサルタン錠 10mg「日新」		判定基準	判定
回転数	試験液		平均 溶出率%	個々の 溶出率%		
50rpm	pH1.2	15分	101.0	99.2~103.2	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。	適合
	pH6.5	30分	84.6	82.3~85.8	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±12%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±20%の範囲を超えるものがない。	適合
	pH6.8	15分	93.1	91.0~95.8	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。	適合
水	360分	45.9	43.4~50.6	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±15%の範囲を超えるものがない。	適合	
100rpm	pH6.5	30分	88.2	86.9~89.5	最終比較時点における試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。	適合

(n=12)

オルメサルタン錠 10mg「日新」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオルメサルタン メドキシミル錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

試験液	回転数	規定時間	溶出規格
第2液(pH6.8)	50rpm	30分	80%以上

**オルメサルタン錠 20mg「日新」** の溶出挙動における類似性

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 9 年 12 月 22 日付医薬審第 487 号（一部改正：平成 24 年 2 月 29 日付薬食審査発 0229 第 10 号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方溶出試験第 1 液

pH6.5 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方溶出試験第 2 液

水 日本薬局方精製水

回転数：50rpm (pH1.2、pH6.5、pH6.8、水)、100rpm (pH6.5)

試験回数：各 12 ベッセル

試験時間：pH1.2 では 2 時間、その他の試験液では 6 時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が 85% を越えた時点で、試験を終了することができる。

分析法：紫外可視吸光度測定法

判定基準：ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って類似性を判定した。

**【pH1.2 (50rpm)】**

標準製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出する場合

試験製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15% の範囲にある。

**【pH6.5 (50rpm)、pH6.5 (100rpm)】**

標準製剤が 30 分以内に平均 85% 以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 85% 以上となる時、標準製剤の平均溶出率が 40% 及び 85% 付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15% の範囲にあるか、又は f2 関数の値は 42 以上である。

**【pH6.8 (50rpm)】**

標準製剤が 15～30 分に平均 85% 以上溶出する場合

標準製剤の平均溶出率が 60% 及び 85% 付近となる適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15% の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。

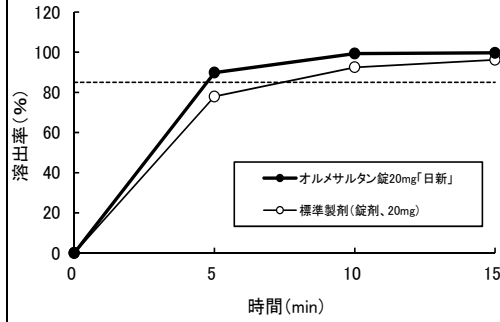
**【水 (50rpm)】**

標準製剤が 30 分以内に平均 85% 以上溶出しない場合

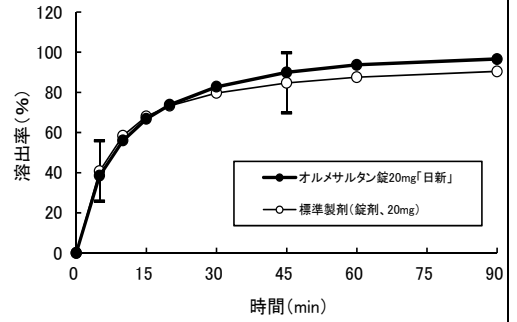
規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 50% に達しないとき、標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9% の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 53 以上である。ただし、規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 10% 以下の場合、規定された試験時間でのみ評価し、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9% の範囲にある。

結果：いずれの場合においても溶出挙動が類似していると判定された。

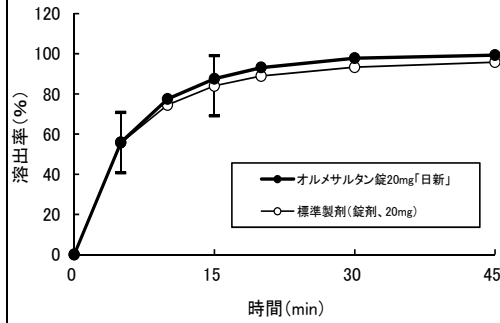
pH1.2 50rpm



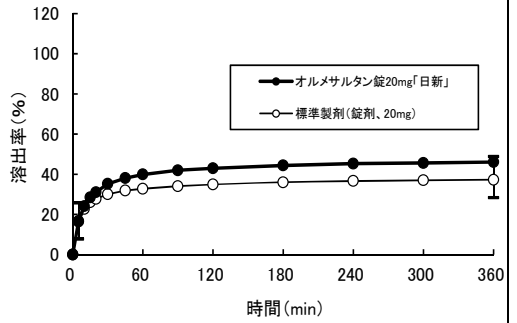
pH6.5 50rpm



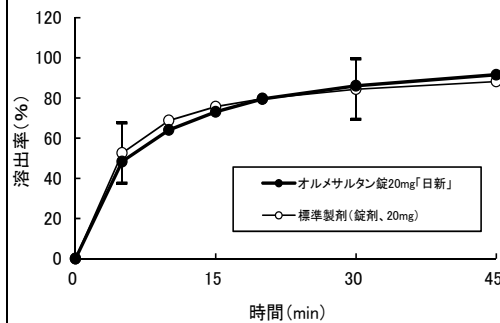
pH6.8 50rpm



水 50rpm



pH6.5 100rpm



表：溶出挙動における類似性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (錠剤、20mg)	オルメサルタン錠 20mg「日新」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50rpm	pH1.2	15分	96.2	99.7	適合
		pH6.5	5分	40.8	
	45分		84.7	90.0	
	pH6.8		5分	55.7	55.9
		15分	84.0	87.5	
	水	5分	16.7	16.5	適合
360分		37.3	46.1		
100rpm	pH6.5	5分	52.6	48.4	適合
		30分	84.4	86.1	

(n=12)

オルメサルタン錠 20mg「日新」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオルメサルタン メドキシミル錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

試験液	回転数	規定時間	溶出規格
第2液(pH6.8)	50rpm	30分	80%以上

**オルメサルタン錠 40mg「日新」** の溶出挙動における類似性

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 9 年 12 月 22 日付医薬審第 487 号（一部改正：平成 24 年 2 月 29 日付薬食審査発 0229 第 10 号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方溶出試験第 1 液

pH6.5 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方溶出試験第 2 液

水 日本薬局方精製水

回転数：50rpm (pH1.2、pH6.5、pH6.8、水)、100rpm (pH6.5)

試験回数：各 12 ベッセル

試験時間：pH1.2 では 2 時間、その他の試験液では 6 時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が 85% を越えた時点で、試験を終了することができる。

分析法：紫外可視吸光度測定法

判定基準：ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って類似性を判定した。

**【pH1.2 (50rpm)】**

標準製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出する場合

試験製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15% の範囲にある。

**【pH6.5 (50rpm) 、 pH6.5 (100rpm)】**

標準製剤が 30 分以内に平均 85% 以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 85% 以上となる時、標準製剤の平均溶出率が 40% 及び 85% 付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15% の範囲にあるか、又は f2 関数の値は 42 以上である。

**【pH6.8 (50rpm)】**

標準製剤が 15～30 分に平均 85% 以上溶出する場合

標準製剤の平均溶出率が 60% 及び 85% 付近となる適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15% の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。

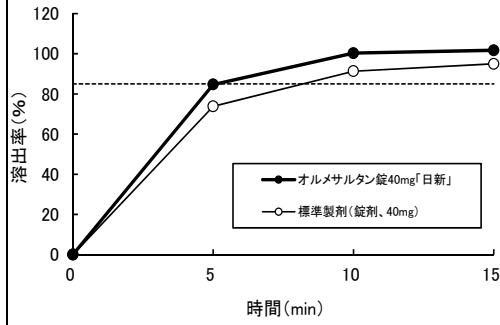
**【水 (50rpm)】**

標準製剤が 30 分以内に平均 85% 以上溶出しない場合

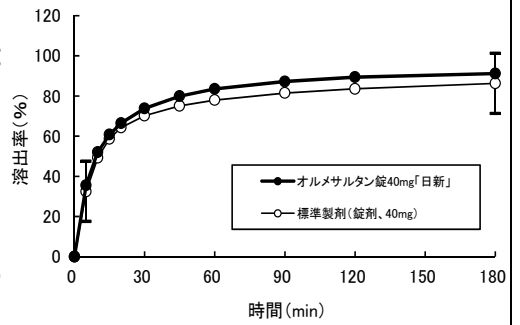
規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 50% に達しないとき、標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9% の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 53 以上である。ただし、規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 10% 以下の場合、規定された試験時間でのみ評価し、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9% の範囲にある。

結果：いずれの場合においても溶出挙動が類似していると判定された。

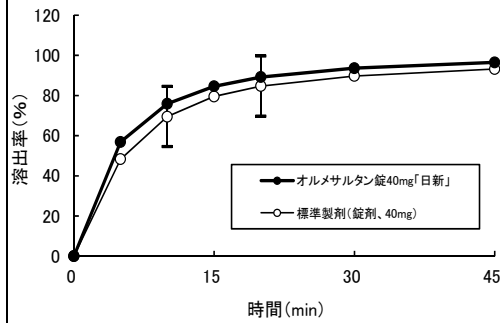
pH1.2 50rpm



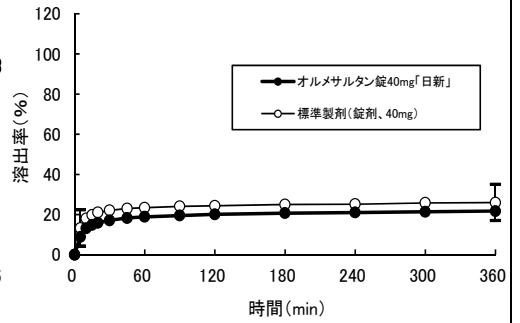
pH6.5 50rpm



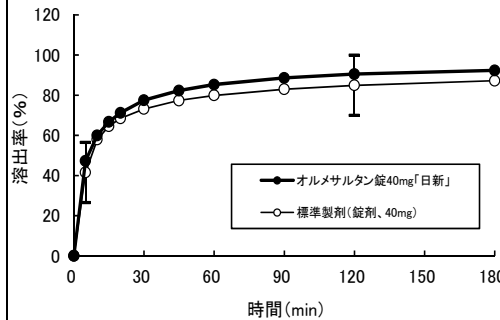
pH6.8 50rpm



水 50rpm



pH6.5 100rpm



表：溶出挙動における類似性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (錠剤、40mg)	オルメサルタン錠 40mg「日新」	判定	
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%		
50rpm	pH1.2	15分	95.0	101.7	適合	
		pH6.5	5分	32.5		35.6
	180分		86.3	91.2	適合	
	pH6.8		10分	69.5		75.9
			20分	84.7	89.2	
	水	5分	13.3	8.9	適合	
360分		26.0	21.7			
100rpm	pH6.5	5分	41.5	47.3	適合	
		120分	84.9	90.5		

(n=12)

オルメサルタン錠 40mg「日新」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオルメサルタン メドキシミル錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

試験液	回転数	規定時間	溶出規格
第2液(pH6.8)	50rpm	30分	75%以上

8. 生物学的試験法	該当しない
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	日本薬局方オルメサルタン メドキシミル錠の確認試験法による。 紫外可視吸光度測定法
10. 製剤中の有効成分の定量法	日本薬局方オルメサルタン メドキシミル錠の定量法による。 液体クロマトグラフィー（内標準法）
11. 力価	本剤は力価表示に該当しない
12. 混入する可能性のある夾雑物	該当資料なし
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	該当しない
14. その他	該当しない

## V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果	高血圧症
2. 用法及び用量	通常、成人にはオルメサルタン メドキシミルとして10～20mgを1日1回経口投与する。なお、1日5～10mgから投与を開始し、年齢、症状により適宜増減するが、1日最大投与量は40mgまでとする。
3. 臨床成績 (1) 臨床データパッケージ (2) 臨床効果 (3) 臨床薬理試験 (4) 探索的試験 (5) 検証的試験 1) 無作為化並行用量反応試験 2) 比較試験 3) 安全性試験 4) 患者・病態別試験 (6) 治療的使用 1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験） 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要	該当資料なし



## VI. 薬効薬理に関する項目

<p>1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群</p>	<p>アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬 (ARB)            アジルサルタン、イルベサルタン、カンデサルタン シレキセチル、テルミサルタン、バルサルタン、ロサルタンカリウム等</p>
<p>2. 薬理作用</p> <p>(1) 作用部位・作用機序<sup>4)</sup></p> <p>(2) 薬効を裏付ける試験成績</p> <p>(3) 作用発現時間・持続時間</p>	<p>オルメサルタン メドキシミルはアンジオテンシンⅡ受容体のサブタイプ AT<sub>1</sub>受容体の拮抗薬である。内因性昇圧物質のアンジオテンシンⅡに対して受容体レベルで競合的に拮抗することにより降圧作用をあらわす。なお、本薬はプロドラッグであり、経口投与後、主に小腸上皮においてエステラーゼにより加水分解を受け、活性代謝物であるオルメサルタンに変換される。</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p>

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度  
 (2) 最高血中濃度到達時間  
 (3) 臨床試験で確認された血中濃度<sup>3)</sup>

該当資料なし

「VII. 薬物動態に関する項目 1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」を参照

#### オルメサルタン錠 5mg 「日新」

オルメサルタン錠 5mg 「日新」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 24 年 2 月 29 日 薬食審査発 0229 第 10 号）」に基づき、オルメサルタン錠 20mg 「日新」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

#### オルメサルタン錠 10mg 「日新」

オルメサルタン錠 10mg 「日新」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 24 年 2 月 29 日 薬食審査発 0229 第 10 号）」に基づき、オルメサルタン錠 20mg 「日新」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

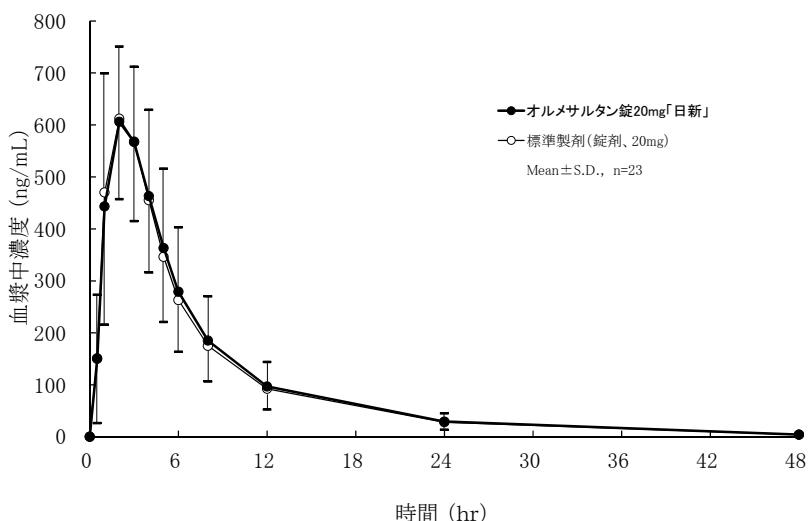
#### オルメサルタン錠 20mg 「日新」、オルメサルタン錠 40mg 「日新」

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 9 年 12 月 22 日付医薬審第 487 号（一部改正：平成 24 年 2 月 29 日付薬食審査発 0229 第 10 号）

オルメサルタン錠 20mg 「日新」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠（オルメサルタン メドキシミルとして 20mg）健康成人男子に絶食時単回経口投与して活性代謝物オルメサルタンの血漿中濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$  の範囲内であり、両製剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-48</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
オルメサルタン錠 20mg 「日新」	4730 ± 1560	664 ± 149	2.3 ± 1.0	7.60 ± 1.43
標準製剤 (錠剤、20mg)	4610 ± 1400	646 ± 146	2.3 ± 0.9	7.65 ± 1.77

(Mean ± S. D., n=23)

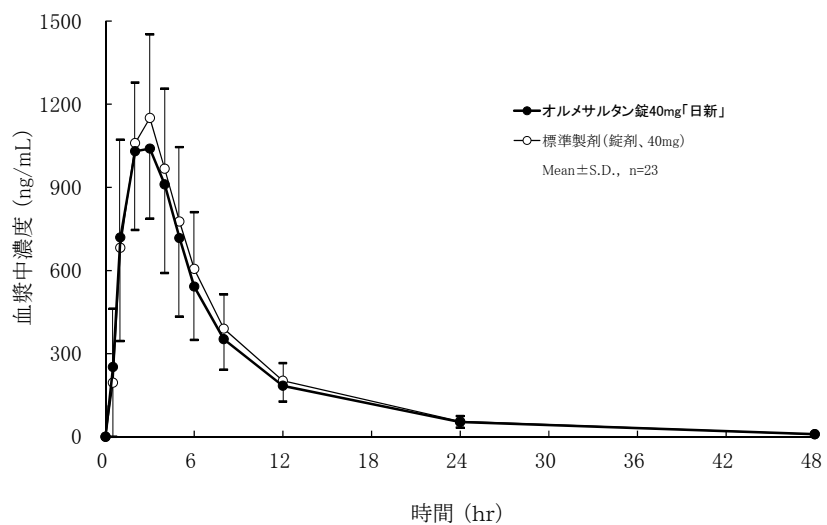


血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

オルメサルタン錠 40mg「日新」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（オルメサルタン メドキシミルとして 40mg）健康成人男子に絶食時単回経口投与して活性代謝物オルメサルタンの血漿中濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$  の範囲内であり、両製剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-48</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
オルメサルタン錠 40mg「日新」	8760±1960	1190±278	2.3±0.9	8.44±1.01
標準製剤 (錠剤、40mg)	9370±2130	1240±262	2.6±0.9	8.12±0.94

(Mean±S.D., n=23)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

- (4) 中毒域
- (5) 食事・併用薬の影響
- (6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし  
「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 7. 相互作用」を参照

該当資料なし

## 2. 薬物速度論的パラメータ

- (1) 解析方法
- (2) 吸収速度定数
- (3) バイオアベイラビリティ
- (4) 消失速度定数
- (5) クリアランス
- (6) 分布容積
- (7) 血漿蛋白結合率<sup>4)</sup>

該当資料なし  
該当資料なし  
「Ⅶ. 薬物動態に関する項目 1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」を参照  
該当資料なし  
該当資料なし  
該当資料なし  
99%（オルメサルタン）

## 3. 吸収

該当資料なし

<p>4. 分布</p> <p>(1) 血液－脳関門通過性</p> <p>(2) 血液－胎盤関門通過性</p> <p>(3) 乳汁への移行性</p> <p>(4) 髄液への移行性</p> <p>(5) その他の組織への移行性</p>	<p>該当資料なし</p> <p>「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与(1)」を参照</p> <p>「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与(2)」を参照</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p>
<p>5. 代謝</p> <p>(1) 代謝部位及び代謝経路<sup>4)</sup></p> <p>(2) 代謝に關与する酵素 (CYP450 等) の分子種</p> <p>(3) 初回通過効果の有無及びその割合</p> <p>(4) 代謝物の活性の有無及び比率</p> <p>(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ</p>	<p>オルメサルタン メドキシミルは、経口投与後、腸管、肝臓あるいは血漿において加水分解され、活性代謝物オルメサルタンに代謝される。</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>「Ⅶ. 薬物動態に関する項目 5. (1)」を参照</p> <p>該当資料なし</p>
<p>6. 排泄</p> <p>(1) 排泄部位及び経路<sup>4)</sup></p> <p>(2) 排泄率</p> <p>(3) 排泄速度</p>	<p>健康な成人男子に <sup>14</sup>C-オルメサルタンメドキシミル 20mg を単回経口投与したところ、血漿中には活性代謝物オルメサルタンのみ認められ、投与した総放射能の 12.6% (240 時間後まで) が尿中に、77.2% (312 時間後まで) が糞中に排泄された。</p> <p>「Ⅶ. 薬物動態に関する項目 6. (1)」を参照</p> <p>該当資料なし</p>
<p>7. トランスポーターに関する情報</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>8. 透析等による除去率</p>	<p>該当資料なし</p>

## Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由	該当記載事項なし
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p><b>次の患者には投与しないこと</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</li> <li>2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）</li> <li>3. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病患者（ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く）〔非致死性脳卒中、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧のリスク増加が報告されている。〕（「重要な基本的注意」の項参照）</li> </ol> </div>
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	該当記載事項なし
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	該当記載事項なし
5. 慎重投与内容とその理由	<p><b>次の患者には慎重に投与すること</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者（「重要な基本的注意」の項参照）</li> <li>(2) 高カリウム血症の患者（「重要な基本的注意」の項参照）</li> <li>(3) 重篤な腎機能障害のある患者〔腎機能を悪化させるおそれがある。血清クレアチニン値が 3.0mg/dL 以上の患者での十分な使用経験はないので、このような患者に対しては状態を観察しながら慎重に投与すること。〕</li> <li>(4) 肝機能障害のある患者〔外国において、軽度又は中等度の肝機能障害患者でオルメサルタンの血漿中濃度(AUC)が、健康な成人と比較してそれぞれ 1.1 倍と 1.7 倍に上昇することが報告されている。〕</li> <li>(5) 脳血管障害のある患者〔過度の降圧が脳血流不全を惹起し、病態を悪化させるおそれがある。〕</li> <li>(6) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照）</li> </ol>
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者においては、腎血流量の減少や糸球体ろ過圧の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。</li> <li>(2) 高カリウム血症の患者においては、高カリウム血症を増悪させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。 また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるので、血清カリウム値に注意すること。</li> <li>(3) 本剤の投与によって、一過性の急激な血圧低下を起こすおそれがあるので、そのような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、特に次の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に行うこと。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血液透析中の患者</li> <li>2) 利尿降圧剤投与中の患者</li> <li>3) 厳重な減塩療法中の患者</li> </ol> </li> </ol>

- (4) アリスキレンフマル酸塩を併用する場合、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。なお、eGFRが60mL/min/1.73 m<sup>2</sup>未満の腎機能障害のある患者へのアリスキレンフマル酸塩との併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。
- (5) 本剤を含むアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤投与中に重篤な肝機能障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を実施するなど適切な処置を行うこと。
- (6) 手術前24時間は投与しないことが望ましい。
- (7) 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。

**7. 相互作用**

(1) 併用禁忌とその理由

(2) 併用注意とその理由

該当記載事項なし

併用に注意すること

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
<b>カリウム保持性利尿剤</b> スピロノラクトン トリアムテレン等 <b>カリウム補給剤</b> 塩化カリウム等	血清カリウム値が上昇することがある。	併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。 危険因子:腎機能障害のある患者
<b>リチウム製剤</b> 炭酸リチウム	血中リチウム濃度が上昇し、リチウム中毒を起こすおそれがあるため、血中リチウム濃度に注意すること。	明確な機序は不明であるが、ナトリウムイオン不足はリチウムイオンの貯留を促進するといわれているため、本剤がナトリウム排泄を促進することにより起こると考えられる。
<b>アリスキレンフマル酸塩</b>	腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。なお、eGFRが60mL/min/1.73 m <sup>2</sup> 未満の腎機能障害のある患者へのアリスキレンフマル酸塩との併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。	併用によりレニン-アンジオテンシン系阻害作用が増強される可能性がある。
<b>アンジオテンシン変換酵素阻害剤</b>	腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 188 759 226">薬剤名等</th> <th data-bbox="759 188 1099 226">臨床症状・措置方法</th> <th data-bbox="1099 188 1425 226">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 226 759 371">非ステロイド性消炎鎮痛剤</td> <td data-bbox="759 226 1099 371">降圧作用が減弱するおそれがある。</td> <td data-bbox="1099 226 1425 371">プロスタグランジンの合成阻害作用により、本剤の降圧作用を減弱させる可能性がある。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 371 759 517"></td> <td data-bbox="759 371 1099 517">腎機能を悪化させるおそれがある。</td> <td data-bbox="1099 371 1425 517">プロスタグランジンの合成阻害作用により、腎血流量が低下するためと考えられる。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	非ステロイド性消炎鎮痛剤	降圧作用が減弱するおそれがある。	プロスタグランジンの合成阻害作用により、本剤の降圧作用を減弱させる可能性がある。		腎機能を悪化させるおそれがある。	プロスタグランジンの合成阻害作用により、腎血流量が低下するためと考えられる。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子								
非ステロイド性消炎鎮痛剤	降圧作用が減弱するおそれがある。	プロスタグランジンの合成阻害作用により、本剤の降圧作用を減弱させる可能性がある。								
	腎機能を悪化させるおそれがある。	プロスタグランジンの合成阻害作用により、腎血流量が低下するためと考えられる。								
<p>8. 副作用</p> <p>(1) 副作用の概要</p> <p>(2) 重大な副作用と初期症状</p>	<p>本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。(頻度不明)</p> <p>(1) <b>血管浮腫</b>：顔面、口唇、咽頭、舌の腫脹等が症状としてあらわれることがあるので観察を十分に行うこと。</p> <p>(2) <b>腎不全</b>：腎不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(3) <b>高カリウム血症</b>：重篤な高カリウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。</p> <p>(4) <b>ショック、失神、意識消失</b>：ショック、血圧低下に伴う失神、意識消失があらわれることがあるので、観察を十分に行い、冷感、嘔吐、意識消失等があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。特に血液透析中、嚴重な減塩療法中、利尿降圧剤投与中の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に行うこと。</p> <p>(5) <b>肝機能障害、黄疸</b>：AST(GOT)、ALT(GPT)、<math>\gamma</math>-GTPの上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(6) <b>血小板減少</b>：血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(7) <b>低血糖</b>：低血糖があらわれることがある(糖尿病治療中の患者であらわれやすい)ので、観察を十分に行い、脱力感、空腹感、冷汗、手の震え、集中力低下、痙攣、意識障害等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(8) <b>横紋筋融解症</b>：筋肉痛、脱力感、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(9) <b>アナフィラキシー</b>：そう痒感、全身発赤、血圧低下、呼吸困難等が症状としてあらわれることがあり、またアナフィラキシーショックを起こしたとの報告もあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(10) <b>重度の下痢</b>：長期投与により、体重減少を伴う重度の下痢があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。なお、生検により腸絨毛萎縮等が認められたとの報告がある。</p> <p>(11) <b>間質性肺炎</b>：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常等を伴う間質性肺炎があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。</p>									

<p>(3) その他の副作用</p> <p>(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧</p> <p>(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度</p> <p>(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法</p>	<p>下記の副作用があらわれることがあるので、異常が認められた場合には必要に応じ投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</p> <table border="1" data-bbox="491 255 1425 815"> <thead> <tr> <th></th> <th>頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過敏症<sup>注)</sup></td> <td>そう痒、発疹</td> </tr> <tr> <td>血液</td> <td>貧血、血小板数減少、白血球数増加</td> </tr> <tr> <td>精神神経系</td> <td>めまい、立ちくらみ、ふらつき感、頭痛、頭重感、眠気</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>下痢、嘔気・嘔吐、口渇、口内炎、胃部不快感、便秘、腹痛</td> </tr> <tr> <td>循環器</td> <td>心房細動、動悸、ほてり、胸痛</td> </tr> <tr> <td>肝臓</td> <td>ALT (GPT) 上昇、AST (GOT) 上昇、<math>\gamma</math>-GTP 上昇、LDH 上昇、A1-P 上昇</td> </tr> <tr> <td>泌尿器</td> <td>BUN 上昇、血清クレアチニン上昇、尿蛋白陽性、尿沈渣陽性、頻尿</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>CK (CPK) 上昇、血清カリウム上昇、尿酸上昇、全身倦怠感、咳嗽、浮腫、CRP 上昇、トリグリセリド上昇、異常感 (浮遊感、気分不良等)、胸部不快感、筋肉痛、脱力感、疲労、しびれ、味覚異常、脱毛</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。血管浮腫、ショック、アナフィラキシーがあらわれることがある。(Ⅷ. 8. (2) 参照)</p> </div>		頻度不明	過敏症 <sup>注)</sup>	そう痒、発疹	血液	貧血、血小板数減少、白血球数増加	精神神経系	めまい、立ちくらみ、ふらつき感、頭痛、頭重感、眠気	消化器	下痢、嘔気・嘔吐、口渇、口内炎、胃部不快感、便秘、腹痛	循環器	心房細動、動悸、ほてり、胸痛	肝臓	ALT (GPT) 上昇、AST (GOT) 上昇、 $\gamma$ -GTP 上昇、LDH 上昇、A1-P 上昇	泌尿器	BUN 上昇、血清クレアチニン上昇、尿蛋白陽性、尿沈渣陽性、頻尿	その他	CK (CPK) 上昇、血清カリウム上昇、尿酸上昇、全身倦怠感、咳嗽、浮腫、CRP 上昇、トリグリセリド上昇、異常感 (浮遊感、気分不良等)、胸部不快感、筋肉痛、脱力感、疲労、しびれ、味覚異常、脱毛
	頻度不明																		
過敏症 <sup>注)</sup>	そう痒、発疹																		
血液	貧血、血小板数減少、白血球数増加																		
精神神経系	めまい、立ちくらみ、ふらつき感、頭痛、頭重感、眠気																		
消化器	下痢、嘔気・嘔吐、口渇、口内炎、胃部不快感、便秘、腹痛																		
循環器	心房細動、動悸、ほてり、胸痛																		
肝臓	ALT (GPT) 上昇、AST (GOT) 上昇、 $\gamma$ -GTP 上昇、LDH 上昇、A1-P 上昇																		
泌尿器	BUN 上昇、血清クレアチニン上昇、尿蛋白陽性、尿沈渣陽性、頻尿																		
その他	CK (CPK) 上昇、血清カリウム上昇、尿酸上昇、全身倦怠感、咳嗽、浮腫、CRP 上昇、トリグリセリド上昇、異常感 (浮遊感、気分不良等)、胸部不快感、筋肉痛、脱力感、疲労、しびれ、味覚異常、脱毛																		
<p>9. 高齢者への投与</p>	<p>(1) 高齢者では一般に過度の降圧は好ましくないとされているので、開始用量を遵守し、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。[脳梗塞等が起こるおそれがある。]</p> <p>(2) 65 歳未満の非高齢者と 65 歳以上の高齢者において本剤の降圧効果及び副作用に差はみられなかった。</p>																		
<p>10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与</p>	<p>(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。また、投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。[妊娠中期及び末期にアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤やアンジオテンシン変換酵素阻害剤を投与された高血圧症の患者で羊水過少症、胎児・新生児の死亡、新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全及び羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、頭蓋顔面の変形、肺の形成不全等があらわれたとの報告がある。]</p> <p>(2) 授乳中の婦人への投与を避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。[動物実験 (ラット) の 5mg/kg/日 で乳汁中への移行が認められている。また、動物実験 (ラット 周産期及び授乳期経口投与) の 200mg/kg/日 で出生児に腎盂拡張を伴う死亡及び体重減少が、8mg/kg/日 で出生児に体重増加抑制及び生後分化の遅延が認められている。]</p>																		
<p>11. 小児等への投与</p>	<p>低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない (使用経験がない)。</p>																		



12. 臨床検査結果に及ぼす影響	該当記載事項なし
13. 過量投与	該当記載事項なし
14. 適用上の注意	薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）。
15. その他の注意	該当記載事項なし
16. その他	該当しない

## Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験 (1) 薬効薬理試験 (「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照) (2) 副次的薬理試験 (3) 安全性薬理試験 (4) その他の薬理試験	該当資料なし
2. 毒性試験 (1) 単回投与毒性試験 (2) 反復投与毒性試験 (3) 生殖発生毒性試験 (4) その他の特殊毒性	該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	製 剤：処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること） 有効成分：該当しない																
2. 有効期間又は使用期限	使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）																
3. 貯法・保存条件	気密容器、室温保存（開封後は湿気を避けて保存すること）																
4. 薬剤取扱い上の注意点 (1) 薬局での取り扱い上の留意点について (2) 薬剤交付時の取り扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等） (3) 調剤時の留意点について	<p>取扱い上の注意</p> <p>本剤をメトホルミン塩酸塩製剤又はカモスタットメシル酸塩製剤等と一包化し高温多湿条件下にて保存した場合、メトホルミン塩酸塩製剤又はカモスタットメシル酸塩製剤等が変色することがあるので、一包化は避けること。</p> <p>「VIII. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法(7)、14. 適用上の注意」を参照</p> <p>患者向医薬品ガイド：有り くすりのしおり：有り</p> <p>「X. 管理的事項に関する項目 4. (1)」を参照</p>																
5. 承認条件等	該当しない																
6. 包装	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>PTP包装</th> <th>バラ包装</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>錠 5mg</td> <td>100 錠</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>錠 10mg</td> <td>100 錠、140 錠(14 錠×10)、500 錠</td> <td>－</td> </tr> <tr> <td>錠 20mg</td> <td>100 錠、140 錠(14 錠×10)、500 錠</td> <td>500 錠</td> </tr> <tr> <td>錠 40mg</td> <td>100 錠、500 錠</td> <td>－</td> </tr> </tbody> </table>			PTP包装	バラ包装	錠 5mg	100 錠	－	錠 10mg	100 錠、140 錠(14 錠×10)、500 錠	－	錠 20mg	100 錠、140 錠(14 錠×10)、500 錠	500 錠	錠 40mg	100 錠、500 錠	－
	PTP包装	バラ包装															
錠 5mg	100 錠	－															
錠 10mg	100 錠、140 錠(14 錠×10)、500 錠	－															
錠 20mg	100 錠、140 錠(14 錠×10)、500 錠	500 錠															
錠 40mg	100 錠、500 錠	－															
7. 容器の材質	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>包装</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>錠 5mg 錠 10mg 錠 20mg 錠 40mg</td> <td>PTP</td> <td>PTP包装：ポリプロピレン系複合フィルム、アルミニウム ピロー包装：ポリエチレンラミネートアルミニウム 化粧箱：紙</td> </tr> <tr> <td>錠 20mg</td> <td>バラ</td> <td>容 器：ポリエチレン キャップ：ポリプロピレン 化粧箱：紙</td> </tr> </tbody> </table>			包装	材質	錠 5mg 錠 10mg 錠 20mg 錠 40mg	PTP	PTP包装：ポリプロピレン系複合フィルム、アルミニウム ピロー包装：ポリエチレンラミネートアルミニウム 化粧箱：紙	錠 20mg	バラ	容 器：ポリエチレン キャップ：ポリプロピレン 化粧箱：紙						
	包装	材質															
錠 5mg 錠 10mg 錠 20mg 錠 40mg	PTP	PTP包装：ポリプロピレン系複合フィルム、アルミニウム ピロー包装：ポリエチレンラミネートアルミニウム 化粧箱：紙															
錠 20mg	バラ	容 器：ポリエチレン キャップ：ポリプロピレン 化粧箱：紙															
8. 同一成分・同効薬	<p>同一成分薬：オルメテック錠 5mg・10mg・20mg・40mg（第一三共）</p> <p>同 効 薬：アジルサルタン、イルベサルタン、カンデサルタン シレキセチル、テルミサルタン、バルサルタン、ロサルタンカリウム等</p>																
9. 国際誕生年月日	不明																

10. 製造販売承認年月日 及び承認番号	<table border="1"> <thead> <tr> <th>販売名</th> <th>製造販売承認年月日</th> <th>承認番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オルメサルタン錠 5mg「日新」</td> <td>2017年8月15日</td> <td>22900AMX00685000</td> </tr> <tr> <td>オルメサルタン錠 10mg「日新」</td> <td>2017年8月15日</td> <td>22900AMX00686000</td> </tr> <tr> <td>オルメサルタン錠 20mg「日新」</td> <td>2017年8月15日</td> <td>22900AMX00684000</td> </tr> <tr> <td>オルメサルタン錠 40mg「日新」</td> <td>2017年8月15日</td> <td>22900AMX00683000</td> </tr> </tbody> </table>			販売名	製造販売承認年月日	承認番号	オルメサルタン錠 5mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00685000	オルメサルタン錠 10mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00686000	オルメサルタン錠 20mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00684000	オルメサルタン錠 40mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00683000																						
	販売名	製造販売承認年月日	承認番号																																					
	オルメサルタン錠 5mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00685000																																					
	オルメサルタン錠 10mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00686000																																					
	オルメサルタン錠 20mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00684000																																					
オルメサルタン錠 40mg「日新」	2017年8月15日	22900AMX00683000																																						
11. 薬価基準収載年月日	2017年12月8日																																							
12. 効能又は効果追加、 用法及び用量変更追 加等の年月日及びそ の内容	該当しない																																							
13. 再審査結果、再評価 結果公表年月日及び その内容	該当しない																																							
14. 再審査期間	該当しない																																							
15. 投薬期間制限医薬品 に関する情報	本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。																																							
16. 各種コード	<table border="1"> <thead> <tr> <th>販売名</th> <th>HOT 番号 (9桁)</th> <th>厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード</th> <th>レセプト 電算コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">オルメサルタン錠 5mg「日新」</td> <td rowspan="3">125949001</td> <td>個別 2149044F3140</td> <td>個別 622594901</td> </tr> <tr> <td>統一名 2149044F3019</td> <td>統一名 622690100</td> </tr> <tr> <td>個別 2149044F1130</td> <td>個別 622595001</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">オルメサルタン錠 10mg「日新」</td> <td rowspan="3">125950601</td> <td>統一名 2149044F1016</td> <td>統一名 622690300</td> </tr> <tr> <td>個別 2149044F2136</td> <td>個別 622595101</td> </tr> <tr> <td>統一名 2149044F2012</td> <td>統一名 622690500</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">オルメサルタン錠 20mg「日新」</td> <td rowspan="3">125951301</td> <td>個別 2149044F4147</td> <td>個別 622595201</td> </tr> <tr> <td>統一名 2149044F4015</td> <td>統一名 622690700</td> </tr> <tr> <td>個別 2149044F4147</td> <td>個別 622595201</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">オルメサルタン錠 40mg「日新」</td> <td rowspan="3">125952001</td> <td>統一名 2149044F4015</td> <td>統一名 622690700</td> </tr> <tr> <td>個別 2149044F4147</td> <td>個別 622595201</td> </tr> <tr> <td>個別 2149044F4147</td> <td>個別 622595201</td> </tr> </tbody> </table>				販売名	HOT 番号 (9桁)	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	オルメサルタン錠 5mg「日新」	125949001	個別 2149044F3140	個別 622594901	統一名 2149044F3019	統一名 622690100	個別 2149044F1130	個別 622595001	オルメサルタン錠 10mg「日新」	125950601	統一名 2149044F1016	統一名 622690300	個別 2149044F2136	個別 622595101	統一名 2149044F2012	統一名 622690500	オルメサルタン錠 20mg「日新」	125951301	個別 2149044F4147	個別 622595201	統一名 2149044F4015	統一名 622690700	個別 2149044F4147	個別 622595201	オルメサルタン錠 40mg「日新」	125952001	統一名 2149044F4015	統一名 622690700	個別 2149044F4147	個別 622595201	個別 2149044F4147	個別 622595201
	販売名	HOT 番号 (9桁)	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード																																				
	オルメサルタン錠 5mg「日新」	125949001	個別 2149044F3140	個別 622594901																																				
			統一名 2149044F3019	統一名 622690100																																				
			個別 2149044F1130	個別 622595001																																				
オルメサルタン錠 10mg「日新」	125950601	統一名 2149044F1016	統一名 622690300																																					
		個別 2149044F2136	個別 622595101																																					
		統一名 2149044F2012	統一名 622690500																																					
オルメサルタン錠 20mg「日新」	125951301	個別 2149044F4147	個別 622595201																																					
		統一名 2149044F4015	統一名 622690700																																					
		個別 2149044F4147	個別 622595201																																					
オルメサルタン錠 40mg「日新」	125952001	統一名 2149044F4015	統一名 622690700																																					
		個別 2149044F4147	個別 622595201																																					
		個別 2149044F4147	個別 622595201																																					
17. 保険給付上の注意	本剤は診療報酬上の後発医薬品である。																																							

## XI. 文献

1. 引用文献	1) 日新製薬株式会社 社内資料 (安定性) 2) 日新製薬株式会社 社内資料 (無包装安定性) 3) 日新製薬株式会社 社内資料 (生物学的同等性) 4) 第十七改正日本薬局方解説書, C-1193, 廣川書店 (2016)
2. その他の参考文献	該当資料なし

## XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況	該当資料なし
2. 海外における臨床支援情報	該当資料なし

## XIII. 備考

その他の関連資料	該当資料なし
----------	--------